

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

農業には、自然を破壊するという一面と、自然を創り出すという一面とがある。

世界の農業に目を向けたとき、農業は間違いなく自然の破壊者として見なされることが多い。

一つは、農地の開発である。

農業を行うためには、農地が必要となる。そのため、森林を伐採して、農地の拡大が行われている。しかし、大規模な農地の開発が行われているにもかかわらず、世界の農地面積は増えていない。これは、どうしてなのだろうか。

じつは、農業を続けることによって土壌が荒廃し、作物の栽培ができなくなっているのである。たとえば、農地で作物を栽培すれば、作物が土の中の養分を吸収する。そのため、土の中の栄養分は失われて、やせた土地になってしまうのである。もちろん、作物を栽培するためには肥料を^{注1}施^せ与^よするが、化学肥料で補える栄養素は限られている。こうして、やせて植物が育たなくなった土は、風や雨水で流出してしまう。じつは、現在では、世界の農地の四〇％で、このような土壌浸食が問題になっている。特に、巨大な食糧生産大国であるアメリカでは七五％もの農地で土壌浸食が起こっていると言うから、深刻である。

土は無限にあるわけではない。土は有機物が分解することによって作られる。

たった一センチメートルの深さの表土が生成されるのに、およそ二〇〇〇年かかると言われている。つまり、作物を栽培する三〇センチメートルの深さの土を作るためには、六〇〇〇〇九〇〇〇年という途方もない歳月を要するのである。② こうして作られた表土が、今、見る

見る失われているのだ。

もちろん、やせた土にならないように、人間は肥料を撒く。しかし、その肥料もまた、砂漠化の原因になっている。

【X】作物を育てるのに、栄養分は必要であるが、適量がある。あまりに高濃度になると、逆に植物に害を与えてしまう。こうして、土壌表面に蓄積されたミネラルなどによって、土地は植物が育たない環境になる。そして、ついには砂漠と化していくのである。この現象は、「塩類集積」と呼ばれている。

古代に繁栄を遂げたメソポタミア文明やエジプト文明は、この塩類集積によって滅亡したとされている。農業は環境を破壊し、そしてその環境破壊は、文明を滅ぼすほどの力を持っているのだ。

科学が進歩した現在でも状況は何一つ変わっていない。農地の塩類集積は大きな問題となっている。今でも、農業による地力の低下や塩類集積によって、一年間に五〇〇〇六〇〇ヘクタールもの農地が砂漠と化している。驚くことに、これは日本全体の農地面積よりも大きな面積である。今や環境破壊は、一地域の問題ではなく、地球規模の問題である。

③ 二一世紀を生きる私たちもまた、文明の危機にさらされているのである。

さらに近年では、水資源の不足も指摘されている。

農業は、植物を栽培するために、大量の水を必要とする。(中略)

中国大陸を流れる黄河は全長五五〇〇キロメートルにも及ぶ世界有数の大河である。しかし、農業用水として水を使いすぎたことによって、下流部では水がなくなる断水が起こっていると言う。また、ロシアのアラル海は、かつて世界で四番目に大きい湖として知られていた。ところが農業用水として水を利用するようになってから、アラル海は見える見る

小さくなり、ほぼ消滅してしまう事態にある。

ところが日本で暮らしていると、ここで紹介したような環境破壊は、どうもピンとこない。それは、日本の農業が④ 田んぼを中心に行われているからなのである。

② 先に述べたように、日本人もまた未開の地を開拓し、田んぼを作ってきた。

しかし、その結果、作られた田んぼに自然破壊のイメージはあまりない。田んぼや田んぼに水を引くための小川は、ドジョウやメダカ、カエル、トンボ、ホタルなど、さまざまな生き物が暮らしている。

田んぼは湿地を開発して作られてきた。そのため、田んぼには湿地の生き物たちがそのまま生息しているのである。そのため、生態学では田んぼの環境のことを「代替湿地」と呼んでいる。

農業が水資源を奪うという点はどうだろう。

水をためる水田は、大量の水を必要とする。しかし、日本は世界の雨の二％が降ると言われるほど、水資源に恵まれた国である。A 水不足のときには水を奪うという面もあるが、むしろ大量に降る雨を受け止めて、ゆっくりと流す役割をしている。

それでは、世界の農地で問題になっている土壌の流亡はどうだろうか。日本の国土を覆う田んぼは、畦でまわりを囲み、土が流出するのを防ぐ砂防ダムの役割をしている。そのため、土をしっかりと受け止めて流さないのである。

それでは、世界の農地を砂漠化している塩類集積はどうだろうか。

土壌表面に塩類が集積するのは、水分の蒸発によって土の中から水が上がってくるためである。雨の多い日本の畑地や、水を張っている田んぼでは塩類集積は問題にならない。

また、作物を栽培することによって、土の中の栄養分が奪われるが、これも日本では問題にならない。昔から「稲は地力で、麦は肥料で作る」と言われ、イネは土の中の栄養を利用する作物であった。もちろん、現在では化学肥料を用いるが、肥料のなかった昔も、山の森林から流れ出る栄養分を含む水が田んぼを潤^{うる}して、栄養分が補給されていたのである。

日本では、毎年、当たり前のように田植えをしてイネを育てる。

これも世界の農業から見れば、極めて珍しいことである。

農作物を栽培するときには、毎年、同じ作物を連続して作ると、うまく育たなかったり、枯れてしまったりすることがある。この現象は「連作障害」と呼ばれている。そのため、作物を育てる場所を替えていかなければならないのである。

ところが、田んぼは毎年、同じ場所でイネばかりを作っている。それなのに、どうして連作障害が起こらないのだろうか。

連作障害の原因には、作物の種類によって土の中の栄養分を偏^{かたよ}って吸収するために、土の中の栄養分のバランスが崩れてしまうことや、作物の根から出る物質によって、^{注3}自家中毒を起こしてしまうことがある。あるいは、同じ作物を栽培することで、土壌中にその作物を害する病原菌が増えてしまうことがある。

ところが、田んぼは水を流している。このことによって、余った栄養分は洗い流され、新しい栄養分が供給される。また、生育を抑制する有害物質も洗い流してくれる。B 水を入れたり乾かしたりする田んぼでは、同じ病原菌が増加することも少ない。

そのため、田んぼでは連作障害が起こらないのである。

イネは何千年もの昔から、ずっと同じ場所で作られ続けてきた。⑤ これは、世界の農業から見れば、まさに奇跡である。

(一部内容を省略し、表記を改めました)

【稲垣栄洋『イネという不思議な植物』】

注1 施与：ほどこし与えること。

注2 先に述べたように：本文より前の部分を指す。

注3 自家中毒：自身の体内で生じた有毒物質により害を受けること。

問一 A・B に当てはまる言葉を、次のア～オからそれぞれ選

びなさい。(同じ記号は二度使用しないこと)

ア けれども イ さらに ウ 一方

エ 確かに オ つまり

問二 線①「農業には、自然を破壊するという一面」とありますが、その例として当てはまらないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 山林・原野を焼きはらって広い耕作地を作り、できた灰を肥料として用いる焼畑農業。

イ 害虫駆除・除草のためにアイガモを水田に放ち、排泄物を有機肥料として利用するアイガモ農法。

ウ 乾燥地帯の砂漠を農地とするために、外来の河川からの用水路を整えて作物を栽培するオアシス農業。

エ 夏に作物を収穫した後、同じ畑に肥料を撒いて冬に収穫する別の作物を育てる二毛作農法。

問三 線②「こうして作られた表土が、今、見る見る失われているのだ」とありますが、「表土」がどのようにして失われているのかを、「失われる。」に続くように、本文中の言葉を用いて四十字以内で説明しなさい。

問七 線⑤「これは、世界の農業から見れば、まさに奇跡である」とありますが、筆者がこのように述べるのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問八 本文には次の一文がぬけています。本文のどの文の直後に入れるのが適当ですか。その文の最後の五字を答えなさい。(句読点も一字にふくみます)

問九 本文の内容として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 日本の稲作のような農業を世界に広めることは、深刻化する水不足の解決としても有効である。

イ イネは土の中の栄養を利用するのに対して、麦は肥料で作るため連作障害が起きやすい。

ウ 作物の栽培に必要な土壌は、有機物の分解が長期間にわたって積み重なることで作られる。

エ 日本の田んぼに多くの生物が生息しているのは、田んぼで化学肥料を使用することがないためである。

問四 【X】に入る次のア～エを、正しい順に並べかえなさい。

ア 日光に温められると土壌表面の水は蒸発し、栄養分を含んだ土の中の水は地表面に上がっていく。

イ こうして、土壌表面に栄養分は蓄積して、濃度を高めていく。

ウ そして、水が蒸発してしまおうとミネラルなどの栄養分だけが、土壌表面に残ってしまうのである。

エ 作物を栽培するために農地に水を撒くと、土に沁み込んだ水に土の中のミネラルなどの栄養分が溶け出す。

問五 線③「二一世紀を生きる私たちもまた、文明の危機にさらされているのである」とありますが、その説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 古代文明を滅亡させたという「塩類集積」は、科学の発展にとまない地球規模の問題へと悪化しているということ。

イ かつて繁栄した文明の滅亡の原因とされる「塩類集積」が、地球全体の問題となつて依然として存在しているということ。

ウ 古代よりも科学技術が進歩した現在においても「塩類集積」の解決が可能にならず、森林が失われ続けているということ。

エ 文明を滅ぼすほどの力を持つ「塩類集積」の問題は、やや沈静化したとはいえ現在でも我々を脅かしているということ。

問六 線④「田んぼ」の特徴について説明した次の文の 1 に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ五字以内でぬき出しなさい。

* 生息する様々な生き物の種類から 1 と呼ばれる田んぼでは、2 いるため塩類集積が起こりにくく、構造上は 3 として土壌浸食を食い止めている。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

男（本多悦太郎）は、職場から神戸の自宅に帰る際に、日曜日ごとに姫路でヒッチハイクを求める少年（西沢静夫）と出会った。男は中学生の息子を亡くしており、そのせいもあつてなぞめいた少年を何度か車に乗せたが、ある日少年はこつ然と姿を現さなくなつた。その後、少年がアルバイトをしていたという店を訪ねたが、彼がうそをついていたことがわかつた。

結果は意外なほど簡単であつてなかつた。最初に電話をした学校に、その少年西沢静夫はいた。

「住所を教えてくださいませんか」

男は電話口でいった。

「あなたはどなたですか」

「西沢君の父親の友人なんです、静夫君の誕生日に贈り物おくをしたいものですから」

電話の向こうで、（西沢はおとうさんがいないはずだけど……）という声がかすかにきこえた。

男はどきつとした。

「なくなったおとうさんのお友だちですか」

電話の聲が大きくなった。

「はい、はい。そうです。」

男の声も思わず大きくなった。

電話に出た教師は、悪いことに使われると困るんですが、いいながら、少年の住所を教えてくれた。

それが、おじさんには耐えられないのです。おじさんはたったひとりの息子を死なせてしまったために、今、家内とふたりでさびしく暮しています。しかし、ふたりともまだ老人ではないので、今後、子どもが生まれないと決まったわけではありません。

こんど子どもが生まれてきたなら、同じあやまちを二度とくり返したくありません。そのためにおじさんは、子どものことを、ほんとうの子どものことを知りたいのです。

あなたからのお返事がとどくことを、こころより願っています。

本多悦太郎

少年から、男のところへ返事がとどいたのは、それから五日のちだった。

——おじさん。ごめんなさい。おじさんがあの国道で日曜日のた
びに、ぼくを待ってくれていたのかと思うと、ぼくは涙なみだが出ました。
おじさんに会えなかったのは、ぼくがおじさんに会えないようなこ
とをしていたからです。それを一つ一つというのはとてもつらいので、
一冊の学級文集を送ります。この中に、ぼくの書いた詩がのってい
ます。それから、ぼくのことを書いた先生の文章ものっています。

利口なおじさん(ぼくのことを利口と書いてくれたおかしです)なら、それだなにもかもわかつてくれると思います。

この学級文集はうらしま太郎の玉手箱のようなものかもしれない。うらしま太郎は玉手箱をあげると、おじいさんになってしまいました。うらしま太郎は、あけるとおじいさんが、ほんとうに人間らしい人間になっていたというしくみです。

男は少年の住所を書きとめた紙片を手帳にはさんだまま、四、五日を過ぎた。

もう、いそぐことはないという思いもあったけれど、どういう形で少
年に再会するかということを考えていたのだった。

あくまで少年の心の問題だから、真相を知りさえすればいいというよ
うなことではない。それを男は悩んだ。

①それから半月もたつて男は一通の手紙を書いた。

——西沢静夫くん。この手紙があなたのところに着くことによつて、おじさんがなにをしたか、利口なあなたにはおよそ見当がつくはずです。それは、あなたに歓迎かんげいされることではないと思ひます。それどころか、あなたの怒りいかでおじさんをもうあなたの友だちにしまへないといふ不安を感じます。

それでもなお、そうしたのには、おじさんの子どもが自ら命を断つにいたったわけを少しでも知りたいと思うからです。それを知ったからといっておじさんの子どもが生き返ってくるというわけではありません。また、あなたの秘密？ とおじさんの子どもの死とどんな関係があるのかと問われれば、それもまたこたえようがありません。

どういったらいでしょうか。

② 知らなくてはならないことを自分の未熟さのために、知らないまま過ごしたり、知ろうとしなかったために、人を傷つけたり、一つの命の生き死にかかわるようなことをしていたとしたら、おじさんは人間でありながら人間でないということになります。わかっていますか。

おじさんに会える日は、そんなに遠くないと思います。ぼくはそれを楽しみにしています。

③ 男は少年から送られてきた文集をくり返し読んだ。

少年の詩、級友の詩、そしてそれを結ぶように子どもに語りかけるような担任の言葉が印刷されてあった。その文集は少年と、少年の担任との出会いからはじまっていた。

ある子どもの書いた詩を少年は教室で批評して、「先生、この詩はまちがっています。この詩は^{注1}常体と敬体を同時に使っているからまちがっています」と発言して教師をおどろかせている。そういうことのいいそ
うな子だと男は思った。

少年の父親は高名な実業家で、数年前、^{注2}物故していること、家の庭にはプールがあり、級友が遊びにきたとき、食事にビフテキを出したことで評判になったということもわかった。

二つの進學塾（じゆく）と家庭教師があてがわれ、成績拔群（ばつぐん）で非の打ちどころがないという子どもだということも、その文集から推測できた。

少年が「ぼく、今、変化がおこってるんだ」と男にいったことがあった。

ちようどそれと注³ 符合するような詩を少年は書いていた。

先生／ぼく、ほんとうは／父の詩、書きたくありませんでした／けれど書けるようになりました／あの時の先生の言葉がききました

教師は少年にどのような言葉を投げかけたのだらう。あの少年に、言葉が、きましたといわせた言葉とはどんな言葉だったのだらう。男はた

め息をついた。

その辺りから少年は急速に教師と接近している。「ぼく、ひとりぼっちにおさらばできるかも知れない」と少年はいったが、このことをいつていたのだったのかと男は思った。

男は文集を置いて目をとじた。少年と教師のさまざまなかつとうが男には羨ましかった。

ノートをあけたら／赤ペンがぜんぜんついていなかった／読んでみると／「よごしたくなかったのです」という言葉が書いてあった／④「ぼくは④その時はんぶん泣きそうになった／よごすもよごさないも／このノートは／先生のノートでもあるのに

そういう少年の詩があった。赤ペンで感想を書くこともはばかられたという少年の文章を男は読んでみたいと思った。その詩からも少年と教師のつながりがうかがえた。

この文集の大きな特徴は、⑤「それぞれの子どもが、自分の中の西沢静夫を見つけていることであつた。

みんな／うれしなみだが流れる時まで／旅人です

という詩を書いた子どもがいた。

西沢君のくるしみは／私は半分わかります／でも私のくるしみは／詩に書くと／言う／家族の一人が苦しむことになります／だから私は書けません／西沢君のことはみんながしっています／わたした

きがほうふつとした。生きたかっただろうなと思った。あの少年がいくつものいのちを生きてみようとしたように、息子は生きたかっただろうなと思った。

そう思うと、⑥「ほとんど、どうしようもない涙が突き上がってきたのだった。

【灰谷健次郎「日曜日の反逆」】

注1 常体と敬体…文末に「だ」「である」を用いた文体と文末に

「です」「ます」を用いた文体。

注2 物故…人が死ぬこと。

注3 符号する…合致する。

注4 塩田…大量の海水から水分を蒸発させ、塩だけを取り出すために用いられる場所および施設。

のくるしみはしれていません／くるしみをだれかに言う／左半分もしくは右半分の／もっこりしたものがおちるでしょう／でもあとの半分はのこっていると思います

そんな詩を書いている子どもがいた。

この詩の作者はつぎのようにも書いていた。

私は／自由帳長い間書けませんでした／考えました／で 結果はやめました／わたしのしんどさを半分にするより／家族のしんどさを倍にする方が／重罪だからです／それでこれも／私にとってはさみしいことです

男は大きなため息をついて、文集をとじた。こんな学級もあつたのかと男は思った。よかつたな坊主と、男はつぶやいた。

「ぼく、ひとりぼっちにおさらばできるかも知れない」と叫んだ少年は、長い旅をしてきた旅人だったのかも知れないと男は思った。ひよつとすれば少年は、級友の人にいけない苦しみを、自らなぞってみようとして日曜日の冒険をくだてたのかも知れない、そう男は思った。

男は車を走らせていた。

塩をとらなくなった注4 塩田は荒れ果てて、びようびようとしていた。かもめがたつた一羽で、飛翔していた。

ゆるく円を描いたかと思うと、急旋回して上昇して見せた。

孤独なやつほど演技をして見せるのかも知れないと男は思った。

すると逝ってしまった息子の顔が脳裏に浮かび、折られた魚釣りの浮

問一 線①「それから半月もたつて男は一通の手紙を書いた」と

ありますが、住所がわかりながら半月も時間を使ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 住所を教えてもらった教師に、悪いことに使われると困ると言われた言葉がずっと心の中で引っかかっていたから。

イ 住所を書きとめた紙片を手帳にはさんだまま、四、五日を過ごしてしまい、なんとなく面倒くさくなってしまったから。

ウ 少年によい形で再会したかったので、少年の心を傷つけないようあれこれ考えていたから。

エ 利口な少年に自分が日曜日のたびに少年を待っていたとさとられて、恥ずかしい思いをしたくなかったから。

問二 線②「知らなくてはならないこと」とは何ですか。本文中から十字程度でぬき出しなさい。

問三 線③「男は少年から送られてきた文集をくり返し読んだ」とありますが、「文集」を讀んでわかることとして最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 少年は級友を教室で批判して教師をからかっていた。

イ 少年の父は有名な実業家であり、すでに亡くなっていた。

ウ 少年の家庭はとても裕福で、それを自慢していた。

エ 少年は成績が悪く、二つの進学塾と家庭教師に教わっていた。

問四 線④「その時はんぶん泣きそうになった」とありますが、少年が泣きそうになったのはなぜですか。その理由を四十字以内で答えなさい。

問五 線⑤「それぞれの子どもが、自分の中の西沢静夫を見つけていることであつた」とありますが、それを説明した次の文の1・2に当てはまる言葉を本文中からそれぞれ五字以内でぬき出しなさい。

* それぞれの子どもが、他者との1やかつとうを通して、自分の中の2を文集に寄せることによって、自分の気持ちを表現していること。

問六 線⑥「ほとんど、どうしようもない涙が突き上がってきたのだつた」とありますが、この時の男の気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 息子に対して、折られた魚釣りの浮きを弁償してあげることができなかつた自分を悔やみ、取り返しのつかぬことをした気持ち。
イ 息子に対して、少年の学校の教師や生徒のようにぶつかりながらも対話を重ねることが出来なかつた自分を悔やんでいる気持ち。
ウ かもめの姿に息子を重ね合わせてしまい、放浪の末に死んでしまった息子のことを思い出し、悲しみを抑えることができない気持ち。
エ 少年のようにいくつものいのちを生きてみたかつた病弱な息子のことを思い出し、悲しみを抑えることができない気持ち。

問七 線「あなたの秘密」とありますが、男は文集を読むことにより、少年が日曜日ごとに姫路に行きいろいろなうそをついていた理由をどのように考えましたか。その理由が書かれている部分を「と考えた。」に続くように四十五字以内で本文中からぬき出し、最初と最後の五字を答えなさい。(句読点も一字にふくみます)

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「食品ロス」という言葉を聞いたことがありますか。まだ食べられる食品が捨てられてしまうことです。

食品ロスには様々な原因があります。生産地では、見た目の悪いaギクク外の野菜などは出荷されずに処分されます。小売店では、クリスマスケーキのようなイベント用の商品が、売り切れを防ぐために多めに用意され、廃棄されています。また、最近では人目をひく写真を撮るために、過度な大盛りや品数の料理を頼んで残すという消費者側の問題もあります。

農林水産省の推計によると、日本で一年間に出る食品ロスの量は、六四三万トン以上とされています。これは、飢餓に苦しむ人々への世界の食料援助量の一・七倍にもなります。多くの食品を廃棄している一方で、七人に一人の子どもが食事に困っています。この状況はAに考えて見過ごすことができません。また、焼却する際に出る二酸化炭素や灰が環境に大きな影響を与えます。

二〇一五年、国連サミットで「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択されました。「持続可能な開発」とは、環境bホセンを考えつつ、将来の世代も現在の世代もcマシクするような開発のことです。それを実現するための世界目標は、十七のゴールと百六十九のターゲット(達成基準)で構成されており、地球上の誰一人として開発から取り残さないことを誓っています。

それをふまえ、日本では食品ロスを二〇三〇年までに、二〇〇〇年の廃棄量から半減させるという目標を設定しました。企業や飲食店でも、様々な取り組みが始まっています。しかし、それだけでは問題の解決にはなりません。私たち一人一人がこの問題を自分のこととして考え、解決に向けて努力することが必要なのです。

問八 この小説の文の構成や表現の特徴として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 話し言葉をたくさん用いることによって、現実と想像の区別があまりない少年時代の雰囲気表現している。
イ 擬人法や擬態語を多く用いることによって、それとなく男と少年の気持ちを表現している。

ウ 少年と級友の詩のやり取りを交互に配置することにより、雰囲気の悪いクラスの様子が浮かび上がる構成になっている。

エ 手紙や詩を小説の中に多く配置することにより、男と少年の思いが浮かび上がる構成になっている。

問一 線a～cのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線①「の」と同じ働きのものを、次のア～エから選びなさい。

ア 兄の努力が実を結ぶ。 イ 休みの日は母を手伝う。

ウ 友人の通う学校へ行く。 エ 妹は絵をかくのが好きだ。

問三 Aに当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 社会的 イ 経済的 ウ 直接的 エ 一時的

問四 本文には次の一文がぬけています。本文のどの文の直後に入れるのが適当ですか。その文の最後の五字を答えなさい。(句読点も一字にふくみます)

* このように、食品ロスが発生することにより、様々な影響や問題が生まれます。

問五 本文の内容として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 食品ロスは企業や飲食店の問題ではなく、私たち個人が解決していかねばならない問題である。

イ 消費者は、食品ロスの多くを出している企業や小売店の立場に立つて問題を考える必要がある。

ウ 私たちは食品ロスを自分自身が関わる問題としてとらえ、減らしていかねばならない。

エ 企業や小売店は多くの食品ロスを出しているので、率先してこの問題の解決を図る義務がある。

問六 食品ロスを削減する具体的な方法を、自分で考えてまとめなさい。その際に、次の(1)・(2)の条件を全て満たして答えなさい。

(1) 「消費者」以外の「生産地」「企業」「小売店」「飲食店」が原因となつている食品ロスについて答えなさい。

(2) 具体的な食品ロスの例をあげて答えなさい。

四

次の各問いに答えなさい。

問一 次の1～5の□の部分に当てはまる言葉を、それぞれひらがなで

答えなさい。(□にはひらがな一字が入ります。)

- 1 悪い行いからは足を□□□べきだ。
- 2 手に□□□仕事を仲間に手伝ってもらう。
- 3 このことは私だけの腹に□□□□□ことにした。
- 4 彼の活躍には、目を□□□□□ものがある。
- 5 相手の鼻を□□□□□ために必死に練習した。

問二

次の1～5の——線のカタカナを漢字と送りがないに直しなさい。
また、それと同じ漢字をふくむものを、後のア～クから選びなさい。

- 1 おもちやを部屋にチラカス。
- 2 平均寿命がノビル。
- 3 勉強をして試験にソナエル。
- 4 チームを勝利にミチビク。
- 5 神仏をトウトブ。

- ア 最新の機械をドウニユウする。
イ 個人のソングンを守る。
ウ 雨で運動会がエンキになる。
エ 実験はセイコウに終わった。
オ ケンアクな空気が流れる。
カ 予定外にサンザイしてしまった。
キ 大勢の観光客でコンザツする。
ク 倉庫のビヒンを整理する。

国語解答用紙

受験番号

氏 名

氏 名

[illegible][illegible]

		三
問六	問四	問一
		a
		b
	問五	
		c
	問二	
		問三

		四
問二		問一
4.	1	1
漢字	漢字	
		2
記号	記号	
5	2	
漢字	漢字	
		3
記号	記号	
		4
	3	
	漢字	
		5
	記号	